

人工妊娠中絶をお考えの方へ

ポイント

- 妊娠初期の中絶は、手術で行う方法と、薬を使う方法があります
- それぞれのメリット・デメリットがあるので、説明をうけましょう
- どちらの方法も、かなり少ないですが、危険性がないわけではありません
- からだだけでなく、気持ちの不調があるときは、ひとりで悩まず相談しましょう



中絶の方法

医療機関によって対応できる方法に限りがある場合がありますが、妊娠12週未満では手術で行う方法、妊娠9週0日以下では薬で排出させる方法があります

	手術12-24時間前	手術	術後2-6時間
手術法	閉じている子宮口をゆっくり安全に広げるための処置を行います 挿入前 ↓ 挿入後半日 (水分を吸収して拡張する)	全身麻酔によって眠っている間に、子宮のなかみを吸引器や器械で取り除きます(15分程度) 吸引	全身麻酔による眠気などがなくなり、子宮、出血などの状態を診察して問題がなければ帰宅できます
	薬剤法	1つ目の薬 医療機関内で内服します 妊娠の進行、維持を止める作用のある薬を飲みます 1つめの薬だけで子宮のなかみが出てくることもあります 	36-48時間後2つ目の薬 医療機関内で口腔内投与します 子宮口を広げ、子宮を収縮させる作用によって、なかみを出す薬を使用します 重い生理痛のような痛みを感じることもあります

人工妊娠中絶はどちらの方法も、母体保護法指定医師が所属する医療機関でしか受けられません

それぞれの方法の特徴

	特徴	副作用		その他の共通の副作用
		●子宮が傷つく	●なかみが残る ●再手術の可能性	
手術法	●妊娠12週未満 ●退院の日時があまりずれない ●全身麻酔で行う ●痛みはほとんどない	1/3000程度	1/300程度	●出血の持続(1-2%) ●感染症 ●アレルギー反応
薬剤法	●妊娠9週0日以下 ●出るまでの時間がまちまち ●麻酔と手術をしなくてよい ●腹痛がある	ほとんどない	3-4%程度 薬で出ない場合は手術が必要(下図参照)	

2つ目の薬を使用してから
なかみが出るまでの時間
(10人中)



なかみが出たと思ってても出血が続く治療が必要なことがあります。1週間後には必ず受診しましょう。また、その後も出血が続くような場合には医療機関に相談することが重要です。

こころのサポート

- 妊娠中絶を受けた8割の方は、つらい経験だったと感じ、半数の方では、半年以上経ってもつらさが続きます。
- 妊娠中絶の経過によっては、次の妊娠に影響をおよぼすことがあります。

今まで通り眠れなくなったり、日常生活に支障をきたしたり、判断力が落ちたりする場合があります。精神的には大丈夫と思っても、からだの不調が出てくる場合もあります。この様なとき、中絶の理由を問わず、同じ経験をした人によるピア・サポートグループや、自治体の相談窓口などで精神的サポートを受けられます。ひとりで抱え込まずご相談ください。

自治体の相談窓口一覧

